



報道関係者各位

2007年10月吉日  
Black Hat - CMP Media

---

**世界トップクラスの専門家が集結する国際セキュリティカンファレンス**  
**『Black Hat Japan 2007 Briefings & Training』は2週間後に開催**  
**-基調講演者は奈良先端大学 山口英教授に決定-**  
**- 開催トレーニングは3コースに決定 -**  
<http://japan.blackhat.com/>

---

デジタルディフェンスに特化したセキュリティシンクタンク「Black Hat」(代表: Jeff Moss、本拠地: 米国シアトル、現 CMP 社デジタルセキュリティ部門)は、世界トップクラスのセキュリティ専門家から直接講義&実習が受けられ、最新セキュリティ情報の交換ができる国際セキュリティカンファレンス『Black Hat Japan 2007 Briefings & Training』を、基調講演に「奈良先端大学教授 山口英氏」、そして世界トップクラスの国際的コンピュータセキュリティ専門家を招聘し、2週間後の10月23日-26日に開催する。

「Black Hat Japan」は、アメリカ・ヨーロッパ・アジアなど全世界で開催されている「Black Hat Briefings & Training」の日本版として2004年より開始。日本で4回目の開催となる今年も財団法人インターネット協会 (IAJapan、理事長: 矢野薫、所在地: 東京都港区) と共同開催し、京王プラザホテルを会場として参加者約300名強を予定している。

==開催概要==

日 程: トレーニング 10月23日(火)-24日(水) ←**実習形式**  
ブリーフィングス 10月25日(木)-26日(金) ←**講演形式**

場 所: 東京新宿 京王プラザホテル

参加費(税込): ブリーフィングス 通常 88,200円 / 当日 92,400円  
3名様以上のグループ割引は一人当たり税込 66,150円  
その他インターネット協会会員、協賛団体会員割引の特典あり

トレーニング 各コースにより異なるため、各コース Web ページを参照  
2名様以上の一括申し込みの場合はグループ割引可。別々のコース受講でも OK  
その他インターネット協会会員、協賛団体会員割引の特典あり

事前登録: 最終〆切は10月19日(金)。その後は当日登録が可能

総合 URL : <http://japan.blackhat.com/> (日本語/英語)

Black Hat Japan の特徴

- ◆ セキュリティ系の国際カンファレンスとして講師陣・内容ともに世界トップレベル
- ◆ 「Black Hat Briefings」は、米国・ヨーロッパ・アジア(東京)の世界3箇所で開催
- ◆ 常に実践に即したベンダー中立による質の高い最新セキュリティ事情や攻撃とその対策情報を発信
- ◆ トレーニングは厳選された充実のハンズオン中心の実践的内容
- ◆ 講演終了後にスピーカーと通訳付で直接話せる「スピーカーテーブル」付 (Japan のみの特典)
- ◆ 全編同時通訳付き
- ◆ CISSP 保有者は CPE クレジットが取得可能 (例: ブリーフィングス参加で16クレジット)



### ブリーフィングス(Briefings)について

2トラック同時進行で12の講義と1つの基調講演を予定。海外から世界トップクラスのセキュリティ専門家が来日し、コンピュータセキュリティに関する最新の技術トレンドや、新たに発見された脆弱性と保護対策技術が発表される。スピーカー申込(CallForPaper)は8月15日締め切られ、厳選トピックが発表された。

詳細: <http://www.blackhat.com/html/bh-japan-07/bh-jp-07-jp-schedule.html>

### <<ブリーフィングス 講演者リスト>>

1. **[基調講演]情報セキュリティ管理のための新しい技術** by 山口 英(奈良先端科学技術大学院大学)
2. **DHCP によるパッシブな OS フィンガープリンティング** by David LaPorte
3. **101号室からの手紙** by Kenneth Geers
4. **DNS Pinning とソケット API について** by 金床
5. **エミュレート環境でのワイヤレスデバイスドライバの Stateful Fuzzing** by Clemens Kolbitsch
6. **ファジングは最悪だ！(あなたの思うようにファジングするには)** by Pedram Amini & Aaron Portnoy
7. **マルウェアの分類とアンパッキングの自動化** by Halvar Flake
8. **ハイパーバイザーを徹底的に楽しむ: Windows Server Virtualization** by Brandon Baker
9. **小さなハイブリッドウェブワームにできること** by Billy Hoffman
10. **URI の使用と悪用** by Nathan McFeters, Billy Rios, Rob Carter
11. **バーチャルマシンのハイジャックの可能性** by Nguyen Anh Quynh (産業技術総合研究所)
12. **.NET フレームワークでのマルチプラットフォーム型マルウェア** by Paul Sebastian Zeigler
13. **スタティック分析によるセキュアプログラミング** by Jacob West

### トレーニング (Training)について

最近巧妙化する詐欺やウイルスに利用されるマルウェアソフトに対抗する技術の実践コース、NSA の認定書が発行される INFOSEC アセスメント方法論コース、攻撃に備える技術を学べる実践コースの3コースの開催を確定した。10月23日と24日の2日間修了で全コースが同時進行する。参加費は各コースによって異なるため、詳細は各コースページを参照。

詳細: <http://www.blackhat.com/html/bh-japan-07/train-bh-jp-07-jp-index.html>

### <<トレーニングコースリスト>>

- 1) **米国国家安全保障局 (NSA) INFOSEC アセスメント方法論 (IAM) : レベル1** by Security Horizon 昨年開催して大変好評を博したコース。必須事項全てを満たした受講者は、米国国家安全保障局(NSA)認定書の取得が可能
- 2) **Windows のマルウェア検出と分析、リバースエンジニアリング** by Pedram Amini 他  
スピードが求められるマルウェア検出と分析のため、現実のウイルスサンプルを使ったリバースエンジニアリング・テクニックとその熟練者の視点を学習できるハンズオンコースである
- 3) **Hacking by Numbers : Bootcamp Edition(ブートキャンプ版)** by SensePost 社  
毎年 USA でも非常に人気の高い、攻撃者の思考・技能・テクニックをメソッド+ハンズオン実習で学習し、その対抗技術をマスターする非常に実用的なコースである



今年の Black Hat Japan の傾向

#### <ブリーフィングについて>

世界的傾向として、増え続けるマルウェアの対策としてリバースエンジニアリング系トピックが多くなりつつあると同時に社会インフラ化してきた Web 系トピックはここ数年のトレンドであり、もはやターゲットはサーバー側からクライアント側へシフトしてきた傾向は周知の事実であろう。バーチャルマシンの脆弱性についての研究結果も見逃せない傾向である。本年の Black Hat Japan Briefings では、世界的なセキュリティトレンドと日本のセキュリティトレンドを反映して、マルウェア、ファジング、バーチャルマシン、Web 系では DNS-Pinning、URI の悪用、Web ワーム、その他 DHCP のフィンガープリントによるネットワークの可能性や、国際的セキュリティ情勢の講演を含む 12 セッションが選ばれた。

スピーカには、米国で講演ができなかったリバースエンジニアリングのパイオニアである Halver Flake 氏の講演が日本で可能になったことも特筆すべき事項である。彼の講演では増え続けるマルウェアのより耐性のある自動分類化方法について紹介する予定だ。そして今回トレーニングとブリーフィングスの両方を担当する Pedram Amini 氏はリバースエンジニアリングの世界的権威であり、講演ではファジングの研究結果を紹介する。2005 年度より毎年講演している Kenneth Geers 氏は、先日実際にエストニアで起きたロシアからの攻撃の前後の現地の情報など世界各国の現状を知る人物であり、彼の講演からは様々な国際情勢が聴講できるであろう。VMware などでのなじみ深いバーチャルマシンの脆弱性をついた攻撃とその対策を発表するのは産業技術総合研究所で働く Nguyen Anh Quynh 氏である。本年唯一の日本人スピーカーである金床氏の DNS-Pinning と SocketAPI に関する研究結果はスタンフォード大学や各業界のエキスパートもリファレンスされ、彼の研究は興味深いと公言しているほどである。金床氏の研究は現状のサーバでは防ぎきれない部分を包括しており、現状とれる対策案が発表されるのは興味深いところである。

最後に、本年の基調講演には内閣官房情報通信技術（IT）担当室電子政府推進管理室兼務奈良先端大学の山口英教授の講演を予定しており、幅広い視点から情報セキュリティ基盤化の問題点を指摘し、その対策に向けての方向性と技術が紹介される予定である。

（参考：各講演者紹介は「[www.netsecurity.ne.jp](http://www.netsecurity.ne.jp)」でも特集記事あり）

#### <トレーニング>

本年のトレーニングでは下記の 3 つのコースに絞られた。

Pedram 氏の「マルウェアの検出と分析、リバースエンジニアリング」は 5 月にも開催したコースであるが、依然その人気は高く、この分野の教育の必要性が実感される。スピードを要求されるマルウェア分析時の視点を実際のサンプルを使って実践形式で学べる数少ない機会である。

SecurityHorizen 社提供の「米国国家安全保障局（NSA）INFOSEC アセスメント方法論（IAM）」は、当初は NSA 内で使用されていた方法論を民間団体向けに応用・体系化したものである。この認定書保有が米国では自社紹介宣伝に掲載されるほど、この資格を政府や民間団体では企業を選ぶ際の企業能力の一つの指針として見ている。このコースは Black Hat 修了書とは別に NSA - IAM 資格を保有する者としての認定書が発行される。認定書発行にはテストをパスするだけでなく、本人の経験も審査対象となる。当初は米国民のみに提供されていた認定書だが、今では世界数か所限定で発行されることとなった。昨年日本で開催されたが、米国民以外に発行された第 1 号である。日本でも遅かれ早かれこの資格が浸透することであろう。

SensePost 提供の「Hacking by Numbers : Bootcamp Edition(ブートキャンプ版)」では、攻撃者の思想や手口とその対策などを講義と実習を交えて進めていく。今年初めて開催されるトレーニングだが、米国では数年前から継続的に開催されているとても人気の高いコースである。受講者にとっては幅広い知識と技術が学べる良い機会となるであろう。



#### 【Black Hat とは】

Black Hat (ブラックハット、現 CMP 社デジタルセキュリティ部門) は、世界規模の企業や政府関連機関のセキュリティ専門家に高度な教育を提供しつづけているセキュリティシンクタンクである。Black Hat の使命の核はコンピュータアンダーグラウンドの優秀な頭脳とセキュリティ専門家をミックスさせることであった。それは世界トップレベルのセキュリティ技術者による最新のセキュリティ情報を提供し続けることで有名なカンファレンス『Black Hat Briefings』にいたる。特定企業に依存しないベンダー中立の立場から常に最新の脅威と対応策が議論される場所として機能している。

1997 年より米国にて毎夏開催される『Black Hat USA』では、2006 年の参加者数は 4000 人を超えた。毎春の『Black Hat Europe』、毎秋の『Black Hat Asia』も定着し、全世界でのセキュリティ情報の発信源となっている。Black Hat はカスタマイズトレーニングも提供している。Amazon.com 社、マイクロソフト社、NSA(米国国家安全保障局)他との仕事経験を有す。

詳細： <http://www.blackhat.com/>

#### 【財団法人インターネット協会とは】

財団法人インターネット協会 (IAJapan: Internet Association Japan) は、「日本インターネット協会」(1993 年 12 月設立)と「電子ネットワーク協議会」(1992 年 10 月発足)との統合により 2001 年 7 月に設立された公益法人で、インターネット関連組織と個人会員を保有している。インターネット関連技術の最新動向の情報提供や、セミナー開催や研究部会活動、IPv6 普及促進活動、インターネット利用におけるルール&マナー集の作成、人材育成のための研修事業などを中心とする活動を行っている。

詳細： <http://www.iajapan.org/>

#### 【CMP Technology 社 とは】

CMP Technology (CMP テクノロジー社、代表: Steve Weitzner、本拠地: 米国ニューヨーク州マナセツト) は、信頼できる情報を提供するブランドとして多くの技術専門家からの信頼を得た、技術産業に役立つマーケティングサービスプロバイダーである。売り手と買い手が最も効率的に交流できるチャンスを提供している。CMP は、英国に本部を置く国際総合メディア企業である United Business Media(ユナイテッドビジネスメディア、<http://www.unitedbusinessmedia.com>)の B2B メディア部門が国際的なビジネスメディア企業として展開している。

詳細： <http://www.cmp.com/>



#### 【協賛スポンサーの紹介】

製品購入決定権を持つ多くの企業のCTOやCIO、セキュリティ関連研究・開発者、ネットワーク/システム開発・管理者、政府系、IT系、金融系関係者が多数参加する『Black Hat Japan』では、協賛企業および団体を募集中。

現在決定している今年の協賛スポンサー企業・団体は以下の通り。

エメラルドスポンサー：ネットワンシステムズ(株) <http://www.netone.co.jp/>

ダイヤモンドスポンサー：住商情報システム(株) <http://www.scs.co.jp/>

シルバースポンサー：(株)日立情報システムズ <http://www.hitachijoho.com/>

セキュアコンピューティングジャパン(株) <http://www.securecomputing.co.jp/>

日本ベリサイン(株) <http://www.verisign.co.jp/>

Qualys Inc. <http://www.qualys.com/>

ブロンズスポンサー：ネットエージェント(株) <http://www.netagent.co.jp/>

セキュリティフライデー(株) <http://www.securityfriday.com/jp/>

(株)セキュアスカイ・テクノロジー <http://www.securesky-tech.com/>

メディアパートナー：サイボウズ・メディアアンドテクノロジー(株) <http://www.netsecurity.ne.jp/>

ハッカージャパン <http://www.byakuya-shobo.co.jp/hj/>

(株)オライリージャパン <http://www.oreilly.co.jp/>

@IT：アイティメディア(株) <http://www.atmarkit.co.jp/>

技術評論社：ソフトウェアデザイン <http://www.gihyo.jp/>

共催団体：財団法人インターネット協会(IAJapan) <http://www.iajapan.org/>

協賛団体：社団法人日本インターネットプロバイダー協会(JAIPA) <http://www.jaipa.or.jp/>

特定非営利活動法人日本ネットワークセキュリティ協会(JNSA) <http://www.jnsa.org/>

独立行政法人情報処理推進機構(IPA) <http://www.ipa.go.jp/>

[本件に関するお問い合わせ先]

Black Hat - CMP Media

Japan Operation 担当者：篠田佳奈

Tel：080-5081-3559

Fax：020-4669-6973

e-mail：[bh@japan.name](mailto:bh@japan.name)

URL：<http://japan.blackhat.com/>